

## 第6回とやま未来創造県民会議における主な意見 (平成31年1月11日開催)

### ◆全般に関すること

- 主体ごとの役割や取組みを整理し、「とやま未来創生戦略」の県民への普及を図っていくことが必要ではないか。
- 将来の地域別の人口やその年齢構成等をシミュレートし、必要な施策を洗い出してもらいたいのではないか。
- 施策を進めるにあたり、ビッグデータを活用することが大事。
- マクロの視点から地域のバランスを考慮しつつ、施策を進める必要があるのではないか。

### 【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 県民希望出生率1.9の実現に向けて、より施策を拡充してほしい。
- 結婚支援システムについて、AIを活用したデータ分析・マッチングの仕組みを検討すべき。
- 出生率は上昇傾向だが、未婚率の高さが懸念される。
- 安心して子育てができる環境面、経済面の仕組みが望まれる。
- 事業所内保育所の設置促進や、病児保育の充実が有効だと思う。

### 【基本目標2】産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- 産業構造をアウトバウンド、インバウンド、ローカルに分けて捉えたうえで、県民総生産を高めていく取組みが必要ではないか。
- 若い起業家への支援を充実させることが必要ではないか。
- 事業承継の際に経営ノウハウ面も円滑に引き継げるよう、小規模企業も含めた若手人材育成の場があるとよい。
- ベンチャー支援のために、官民連携のファンドは考えられないか。
- 「富富富」の計画的な生産拡大に努めるが、さらなるブランド化・差別化が必要。
- 関係機関が一丸となり、農業・林業の担い手の確保に取り組みたい。
- 海外からの着地型観光の担い手の育成・支援をしてほしい。

- インバウンドが増加する時代にあっては、キャッシュレスやWi-Fiといったインフラの充実が必要。
- インバウンドの促進、特にリピーターの獲得には、多言語でのご案内、おもてなしの充実に地域全体で取り組むことが重要。
- インバウンドでは早朝の観光が注目されており、富山県には、サイクリング、マラソン、ハイキングや、走りながら食べるランピックなど、期待できる資源がある。
- 観光列車のPRには、鉄道事業者間の連携に加え、県からのバックアップも期待される。
- 黒部ルートについては、立山黒部のブランド化の中核として強力にアピールしていくことが大事。
- 移住した後にも地域に住み続けてもらうための支援が必要ではないか。
- 地元に残りたい人、帰りたい人が直面する具体的な障壁について、調査をしてはどうか。

### 【基本目標3】女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 女性や高齢者が元気に働ける場づくり、地域の担い手として活躍できるような人づくりの充実が必要ではないか。
- 高齢者には、労働力として活躍していただく必要もあると思うが、地域活動の担い手としても重要であり、両立が課題。
- 高齢者に活躍してもらうには、短時間勤務の活用が有効ではないか。

### 【基本目標4】活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- 富山きときと空港から飛騨高山までの2次交通を充実させる必要があるのではないか。
- 年齢を重ねても学び直しができる仕組みづくりが必要ではないか。
- 地域に貢献する人材を育てるため、幼い頃から富山の良さを地道に教えていくことが大事ではないか。